ＪＲ四国労組ニュース

令和３年１２月２３日（Ｎｏ１６／１）　発行責任者／大谷　清　　編集責任者／石川　敏也

「多度津工場における検査・修繕体制の見直しについて」

ＪＲ四国労組は、「多度津工場における検査・修繕体制の見直しについて」の説明を会社より受けた。

会社は「ＪＲ四国グループ長期経営ビジョン２０３０」及び「ＪＲ四国グループ中期経営計画２０２５」において、経営基盤強化のために「省力化・省人化による生産性向上」に取り組むとの基本方針を掲げている。その施策の一環として、今年度より推進されている「多度津工場近代化工事」において、効率的な検査・修繕体制の構築を目的とした職場レイアウトの適正化や将来の検査・修繕体制を見据えた直轄と委託の分担見直しを計画している、との内容であった。（詳細は別紙参照）

＜主なやりとり＞

会社：近代化工事により、自動化や職場環境の改善、労働災害リスクの低減にも期待しているところ。

組合：近代化工事推進にあたり、実際に工場で働く組合員からは色々な意見が出されるかと思う。適切に耳を傾けていただきたい。
また、工事は進められているが、どういったスケジュール感で進んでいるのか分からず不安を感じる組合員もいる。情報については前広にご周知願いたい。

会社：指摘を踏まえ、お伝えできる情報は積極的に周知展開を図りたいと思う。

組合：グループ会社も含めて、将来の検査・修繕体制を見据えるにあたっては、予定する採用者数を確保する必要があるのではないか。要員不足で計画倒れにならないよう留意されたい。

会社：グループ会社においては、近隣の高校への採用活動で一定の成果を出しているところもあり、当社においても引き続き力を入れていきたい。

以上

検査・修繕体制の見直し

別紙
2021年12月

2021年度より施工している「多度津工場近代化」では、効率的な検査・修繕体制の構築を目的として、点在している部品職場を車両の解体・組立作業の流れに沿って再配置する等、職場レイアウトの適正化を図ります。

建屋が完成していないため、職場の再配置は先ではあるものの、将来の検査・修繕体制を見据え、また、当社から委託先（四国鉄道機械㈱）への技術継承の観点からも、直轄と委託の分担について、以下のとおり見直しを行います。

1　将来の検査・修繕体制の基本的な考え方

車両の品質維持、安全維持、効率性の観点から次の役割分担とする。

直轄	・車両からの部品取外・取付、最終的な仕上り検査 ・安全にかかわる足回り等の部品・機器の検査・修繕を一括して実施
委託	・個々の部品・機器の検査・修繕を一括して実施

2　今回の分担見直し

基本的な考え方に基づき、次のとおりとする。

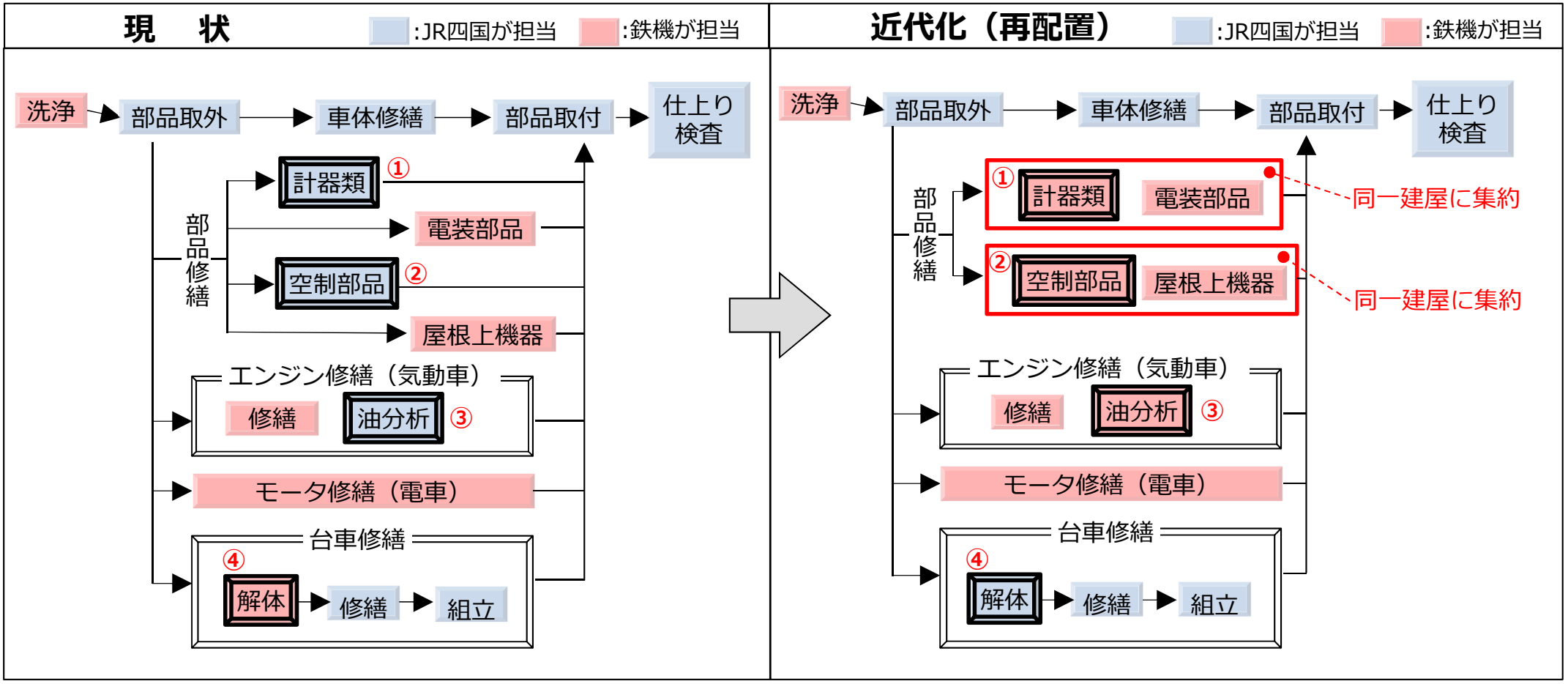
直轄化	・台車修繕における「解体」
委託化	・部品修繕における「計器類」「空制部品」 ・エンジン修繕における「油分析」 ※現在、本作業に従事しているエキスパート社員等の出向により技術継承を進める。

3　実施時期

2022年4月1日

検査・修繕体制の見直し

<見直しのイメージ>



4　今後の進め方

２０２１年１２月　社員向け説明会
２０２２年４月　　実施